

令和 7 年第 2 回 小林市議会定例会（3 月議会） 一 般 質 問 通 告 書

質問者一覧

質問日	開始時間 (予定)	発言順番	議員名	ページ
2 月 28 日（金）	午前	①	原 勝 信	P 2
		②	竹 内 龍 一 郎	P 4
	午後	③	押 領 司 剛	P 6
		④	舞 田 重 治	P 8
3 月 3 日（月）	午前	⑤	鎌 田 豊 数	P 9
		⑥	永 野 雅 己	P 1 1
	午後	⑦	野 田 利 典	P 1 4
		⑧	堀 研 二 郎	P 1 5
3 月 4 日（火）	午前	⑨	小 川 真	P 1 7
		⑩	大 迫 み ど り	P 1 9
	午後	⑪	高 野 良 文	P 2 0
		⑫	能 勢 誠	P 2 1

2月28日（金）

発言順番 1

原 勝信

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項 1 地域医療の充実について	少子高齢化、医師不足等の課題に対応し持続可能な医療体制の確保を図るため、オンライン診療の環境整備について伺う。	市長
（１）オンライン診療について	国は令和４年度から、オンライン診療の実用化に向けて、より質の高い診療環境の構築を目指し、診療カーを活用したオンライン診療の取組を推進している。 診療カーを活用したオンライン診療の効率的な活用について伺う。また、実施場所の拡大の考え方について伺う。	
（２）在宅当番の診療について	日曜・祝日の在宅当番、医療機関の診療体制について。また保険薬局日曜祝日在宅当番の対応について伺う。	
質問事項 2 教育行政について	小林市教育みらい検討委員会からの小林市立学校の在り方に関する提言書の提出による市立中学校の対応について伺う。	市長 教育長
（１）中学校の在り方について	小林市教育みらい検討委員会からの小林市立学校の在り方に関する提言書の提出による、学校部活動の適正な運営や効率的・効果的な活動の在り方について伺う。	
（２）修学旅行について	令和７年度の市内各中学校の修学旅行先について伺う。	
質問事項 3 国土強靱化の対策について	国の「防災・減災、国土強靱化のための５か年加速化対策」によると、令和７年度までの５か年に追加的に必要となる事業規模等を定め、重点的・集中的に対策を講ずるとある。 近年、気候変動の影響により気象災害が激甚化・頻発化し、南海トラフ地震等の大規模地震は切迫している。また高度経済成長期以降に集中的に整備されたインフラが今後一斉に老朽化する。適切な対応について伺う。	市長 教育長

(1) 施策の効率化について	インフラの維持管理・更新について、水道施設の耐災害性強化対策、上下水道管路の耐震化・強化対策について伺う。また、道路管理体制の強化対策、被害防止・最小化のための対策について伺う。	
(2) 大規模災害について	災害が頻発する中、全国津々浦々の学校施設の防災機能の強化が不可欠である。学校施設の体育館空調の整備をはじめとした防災機能強化等を推進し、地域課題に寄り添った実装を後押ししていくための具体的方策について検討する観点から、「学校施設の防災機能の強化・実装に向けた検討会」が設置されている。公立小中学校の防災機能強化等対策について伺う。 また、避難施設の住民への多様化する情報伝達手段の対策について伺う。	
質問事項 4 学生の勉強しやすい環境について	市内公共施設における席数の増設並びに利用施設の拡張について伺う。	市長 教育長
質問事項 5 宿泊費助成制度について	市外からのスポーツ団体を受け入れる際の宿泊費補助制度の考え方について伺う。	市長 教育長

2月28日（金）

発言順番 2

竹内 龍一郎

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項 1 安心・安全・低廉な上下水道事業について	小林市は霧島連山の麓にあり、名水百選にも選ばれた水の豊富なまちであります。ここ数年来、全国各地で大地震・大型台風など未曾有の災害が頻発しています。そのなかで住民生活に欠かせないものが水です。水は、飲料水はもとより、洗濯・風呂・トイレなど一番欠かせないものです。そこで水道管や下水道管の老朽管の布設替えや漏水工事の現状について伺う。また、全国的に問題となっているPFAS（有機フッ化物）の環境汚染について伺う。	市長
（１）市の上下水道事業の現状と対応について	1月28日に埼玉県八潮市で発生した下水道管の漏水が原因と思われる道路陥没事故や最近では宮崎市中心街で漏水工事中に市道が陥没した事故が発生し、全国的に水道管や下水道管の老朽化が問題になっている。そこで小林市での水道管及び下水道管の管理・点検、老朽管の布設替えの計画と進捗状況を伺う。また、漏水調査の実施状況と結果について伺う。	
（２）水道施設の災害における給水対応の現状について	台風・大雨や寒波により水道施設から給水が滞った場合の対応について、今までどれくらいの給水実績があるのか。 緊急用の携帯ポリ缶・袋の容量と保管個数について、また、十分に対応できるのか。一日どれくらい給水可能なのか検証しているのか。今後想定される南海トラフ地震や自然災害への対応は十分なのか。 給水車等の配置計画はないのか伺う。	
（３）PFAS（有機フッ化物）について	全国的な問題となっているPFAS（有機フッ化物）の環境汚染について、該当地域があるのか。また、小林市の検査結果と現状認識を伺う。	
質問事項 2 小・中学生の目の健康につ	小・中学生の裸眼視力の低下について、全国の調査結果が公表されたが、小林市の状況と対応策	市長 教育長

いて	を伺う。	
(1) 小・中学生の視力検査の現状と対応について	2024年度の学校保健統計調査の結果では、裸眼視力 1.0 未満の割合は小学生 36.84%、中学生 60.61%となっている。この比率はコロナ禍の2020～2023年度を除くと過去最高となる。小林市での小・中学生の裸眼視力 1.0 未満の割合はどれくらいか。インターネットや動画サイトの視聴などの制限や約束事など調査はされているか伺う。 児童・生徒のスマートフォンやタブレットの利用状況は把握されているのか。GIGAスクール事業でのタブレット使用マニュアルは守られているか検証しているのか。子どもたちの目を大切にする取組や啓発について伺う。	
質問事項 3 職員の働き方改革について	正規職員・会計年度任用職員の現状、休日勤務等の対応、窓口の業務改善について伺う。	市長
(1) 職員採用について	令和7年度の職員採用予定者数とその職種について伺う。また、今年度中（令和7年3月末）の早期退職者を含めて退職者数について伺う。 会計年度任用職員の採用における令和7年度の採用予定者数と令和6年度の採用実績について。また、応募状況と採用の時期について伺う。 正規職員数と会計年度任用職員数の昨年度からの推移について伺う。県、他市と比べてどうか。 令和7年度から会計年度任用職員の勤務時間が1時間短縮されるが、その理由と職員への影響は。	
(2) 時間外勤務及び休日勤務について	時間外勤務と休日勤務の実態について伺う。昨年度と比べて増減はどうなっているのか。休日勤務の対応はどうしているのか。災害を除いて他課への応援業務は年間どれくらいあるのか。	
(3) 窓口業務の改善について	職員の働き方改革やコスト削減の目的で、宮崎市と都城市が窓口対応の時間短縮や事前予約を開始している。本市においても、窓口業務の改善について検討しているのか伺う。	

2月28日（金）

発言順番 3

押領司 剛

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項 1 教育行政について	少子化の進展により、学校教育では様々な課題に直面していると思われるが、次の項目について伺う。	市長 教育長
（１）小林市教育みらい検討委員会からの提言書について	去る２月５日に「小林市立学校の在り方に関する提言書」が提出された。この提言を受けて、小・中学校の今後の適正規模、通学条件、地域における学校の役割、統廃合の前提条件などについて市の見解を伺う。	
（２）学校行事の在り方について	人口減少や少子化によりＰＴＡの会員数も減少していると思うが、コロナ禍後の学校行事（運動会、参観日、駅伝大会、田植え・稲刈り、餅つきなど）の現状について伺う。 また、それらの行事と各校区のきずな協働体との連携について伺う。	
質問事項 2 観光行政について	本市が有する観光資源の活用や展開について伺う。	市長 教育長
（１）野尻地区について	野尻地区は、宮崎市内から車で１時間以内と立地は好条件と考えるが、のじりこぴあ、ゆ〜ぱるのじり、いちご狩り、キャンプ場、釣り大会等と連携した集客方法の考えについて伺う。	
（２）須木地区について	須木地区は、北霧島の奥座敷と言うべき魅力的な地域であるが、小野湖、合宿施設、キャンプ場等の集客方法の考えについて伺う。 また、国道 265 号線の整備状況及び県道 26 号線をサイクリングコースとして位置付ける考えはあるか伺う。	
（３）生駒地区について	生駒地区は、霧島ジオパークに認定されている霧島連山の麓に位置し、環境に恵まれた地域であるが、今後の集客方法の考えについて伺う。 また、北きりしま広域観光推進協議会を設立し	

	ているが、生駒高原やえびの高原の活用、ゴルフ場と温泉施設との連携について、夷守岳、大幡山及び巢之浦川大滝の入山状況について伺う。	
（４）ガストロノミーツーリズム（※）について	多様な食文化に触れることを目的とした観光である「ガストロノミーツーリズム」について、食の宝庫である本市として何か展開を考えているか。 （※）ガストロノミーツーリズムとは・・・その土地が育んだ食文化に触れることを目的としたツーリズムのこと。	

2月28日（金）

発言順番 4

舞田 重治

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項 1 令和7年度予算編成方針について	経済状況を見ると、物価上昇が賃金上昇を上回り、農業では、生産物価格の低迷や生産資材の高止まりにより、持続的経営の厳しさから離農する農家も多いのが現状である。また小規模事業者の休廃業や閉店も見かける。また高齢者年金受給者世帯でも、令和の米騒動や生鮮食料品を含む値上げラッシュにより市民からは助けてほしいとの声もある。非常に厳しい状況にあると言わざるを得ない。この状況の中で令和7年度予算をどのように編成したのか伺う。	市長
（１）予算編成のマイナスシーリングについて	物価上昇により、経済状況が非常に厳しい中で、令和7年度予算編成は令和6年度当初予算における一般財源の額の90%以内とマイナスシーリングとなっているが、「じょじょんよかとこ小林市」は実現できるのか、今日より明日は良くなる楽しい小林になるのか伺う。	
（２）国の方針による令和7年度予算編成への影響について	国の「経済財政運営と改革の基本方針2024」では、定額減税により家計所得の伸びが物価上昇を上回る状況を実際に作り出すとあるが、市民生活へ効果があったのか。また、生産性向上に向けた国内投資の拡大等を通じて、潜在成長率の引上げに取り組むとあるが、地方への投資が示されているのか現状を確認し、令和7年度予算への影響について伺う。	
（３）健康都市プロジェクトについて	第2次小林市総合計画後期基本計画に設定されたリーディングプロジェクトを戦略的かつ優先的に取り組むとあるが、健康都市プロジェクトの具体的な取組について伺う。	
（４）税負担の妥当性と公平性について	物価が上昇する中、消費税やガソリン税の負担が市民生活に影響を与えている。税は応能負担が原則のはずだが、妥当性と公平性について国へ要望する考えはないか伺う。	

3月3日（月）

発言順番 5

鎌田 豊数

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項 1 東九州新幹線の誘致について	本県への東九州新幹線整備について県は3ルート案の調査結果概要を示した。また、宮崎日日新聞は県内市町村長にアンケート調査を実施した。しかし、市民の関心は高まっているが状況をつかめていない。本市への影響、在来線の維持、財政負担等、県とどのような協議が行われているのか。本市の考え方について伺う。	市長
質問事項 2 学校の統廃合について	生徒や児童数が減少する中、学校の統廃合は重要な課題である。小林市教育みらい検討委員会から提言書が提出されたが、その経緯と提言書の概要について伺う。	市長 教育長
（1）今後の対応について	提言書を受け、市ではどのように協議していくのか。地域住民との合意形成を丁寧に実施し、方針を決定する必要があるが、今後の対応について伺う。	
質問事項 3 認知症予防と対策について	全国の認知症の高齢者数は、2025年で471万人、2040年には584万人になると予測されている。本市の現状と認知症予防にどのように取り組んでいるのか、課題は何か伺う。また、厚生労働省から認知症施策推進基本計画が示されたが、そのポイントと今後の取組について伺う。	市長
質問事項 4 加齢性難聴の早期発見と対策について	難聴になるとコミュニケーションが円滑にできにくくなり、人との交流が減って社会的に孤立すれば、うつや認知症を発症する可能性が高まる。難聴に早く気づき、適切な対応をする必要があるが、本市の現状について伺う。 本市の実態を把握することが重要だと考えるがアンケート調査を実施する考えはないか。また、アプリを活用したヒアリングやフレイルチェックを実施する考えはないか伺う。	市長
（1）軟骨伝導イヤホンの設置について	窓口に軟骨伝導イヤホンを設置している自治体や県内の状況について伺う。また、本市でも導	

	入できないか伺う。	
質問事項 5 帯状疱疹ワクチンの定期接種化について	厚生労働省は原則 65 歳の人を対象に 2025 年 4 月から定期接種化を開始し、接種費用の一部が公費で助成される。各自治体で助成を推進することになっているが、本市の状況について伺う。 また、接種者がワクチンの有効性、安全性及び費用対効果について十分に理解した上で接種できるようにする必要があると考えるが、どのように取り組むか伺う。	市長

3月3日（月）

発言順番 6

永野 雅己

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項 1 第2次小林市総合計画後期基本計画について	第2次小林市総合計画後期基本計画（令和4年～令和7年）は、残り1年となりました。これまでの3年間で、市の施策はどのように進み、どのような成果が得られたと評価されていますか。 また、計画の進捗状況について、市として課題や改善点があるとすれば、それは何でしょうか。 さらに、残り1年の期間で重点的に取り組むべき施策や、今後の市政運営の方針について、市長の考えを伺います。	市長
（1）健幸のまちづくり拠点施設周辺の整備について	「健幸のまちづくり」の一環として整備が進められている健幸のまちづくり拠点施設は、昨年9月に着工し、順調に工事が進んでいます。そのような中、施設完成後の周辺交通について、市民から特に県道53号線（山麓線）側の出入り口の交差点に信号機を設置してほしいとの要望が寄せられています。この点について、市としてどのような考えなのか、今後どのような対応を検討しているのか伺います。 また、令和5年9月定例会の一般質問で取り上げた熊迫用水路の調査及び対応について、その後の進捗状況や今後の方針について伺います。	
質問事項 2 農畜産業の振興について	コロナ禍以降、ウクライナ情勢の影響で物価が高騰し、特に化石燃料や濃厚飼料、資材の価格が上がっています。さらに、和牛に関しては和牛肉消費の伸び悩みにより子牛の価格が低迷し厳しい状況にあります。 また、果樹農家は昨年5月の強風による梨の落下や高温によるぶどうの品質低下、早期出荷などの影響を受け、露地野菜の農家も、植え付け時期の長雨や成長期の少雨により、生産量が減少しました。こうした厳しい状況の中で、離農する農家も増加傾向にあります。一時的な国庫補助はある	市長

	ものの、経済的な負担を補うには不十分な現状です。 当市の基幹産業である農畜産業を守るための市としての支援策や今後の取り組みについて、市長の考えを伺います。
（１）家畜頭数の現状と今後の方針について	J Aみやざき小林支部の報告によると、令和6年に和牛繁殖を辞めた農家は96件、母牛の減少は1,448頭にのぼり、そのうち小林市管内では73戸が離農し、母牛は951頭減少したとのこと。この深刻な状況を踏まえ、市として今後どのような支援策や対応策を考えているのか、お聞かせください。 また、和牛繁殖を辞めた農家の耕作地の利活用についても課題となると思いますが、本市としての考えについて伺います。国や県は粗飼料の自給率向上を推奨していますが、市における現状と課題について伺います。
（２）和牛子牛の差別化の取組について	小林市、えびの市及び高原町を管内とする小林地域家畜市場では、いち早くB L（牛伝染リンパ種）検査に取り組み、B Lフリーの雌子牛に付加価値をつけることで、他の市場との差別化を図ってきました。しかし、現在では県内全体や他県でもB L検査の取組が進んでおり、これまでのような差別化が難しくなってきています。 今後、小林地域家畜市場として、さらに雌子牛の付加価値を高めるための新たな取組や他市場との差別化をどのように考えているのか、市の方針を伺います。
（３）家畜防疫体制の現状と今後の取組について	昨年11月に福岡県糸島市で牛ランピースキン病が発生し、その後、熊本県の乳牛・和牛生産農家でも感染が確認されました。この病気への対応について、市としてどのような対策を講じているのか、お聞かせください。 家畜伝染病に関しては、鳥インフルエンザが県

	内の川南町や串間市で発生しました。また、豚熱（ＣＳＦ）も１月に群馬県で発生し、九州では佐賀県で確認されるなど、全国的に感染拡大のリスクが高まっており、対策として野生イノシシへの経口ワクチン投与も始まっています。さらに、ドイツでは３７年ぶりに口蹄疫が発生するなど、海外でも家畜伝染病の脅威が広がっています。 このような状況を踏まえ、市として家畜伝染病の防疫対策や今後の取組について、どのように考えているのか、市の見解を伺います。	
質問事項３ 水道水の現状と今後の対応について	昨年５月、国土交通省や環境省からの事務連絡により、全国の水道事業者に対してＰＦＡＳ（有機フッ素化合物）の検査と対応が求められました。新聞などでもＰＦＡＳ汚染が取り上げられる中、当市でも昨年８月に上水の検査を実施し、３１ng/LのＰＦＡＳが検出されたことが公表されています。 この検査結果について、市としてどのように受け止めているのか、また、市民の安全を確保するために今後どのような対策を講じていくのか、考えを伺います。	市長

3月3日（月）

発言順番 7

野田 利典

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項 1 市長の政治姿勢について	市政の現状は人口減少問題、公共施設の老朽化、農業後継者問題、空き家対策など課題が山積しており情勢が極めて厳しい中で、市長の考える新年度予算案の重点施策について伺う。	市長 教育長
質問事項 2 財政調整基金について	昨年、一般質問の市長答弁で財政調整基金はいくらあっても良いとのことだったが、安心・安全なまちづくりのために必要な支出は止むを得ないと思うが、最低限維持しておきたい金額はどのくらいか伺う。また、財政調整基金の財源の現状と来年度の目標や見通しについて伺う。	市長
質問事項 3 小林市住宅マスタープランについて	「小林市住宅マスタープラン（住生活基本計画）」は、安全・安心・快適に生活できる新たな住まい・まちづくりを進めることを目的に、中長期的な視点から 10 年間の計画として令和 4 年度に策定された。3 年目が経過する現在において具体的な施策を行ってきたのか、問題点や課題に対しどのように対策を行うのか伺う。	市長
（１）市営住宅の現状と課題について	市営住宅は、昭和 50 年代に建築した物件もあり、老朽化が進んでいると思われるが修繕の状況と解体の計画について、また新築の計画について伺う。	
質問事項 4 福祉バスのダイヤ改正について	福祉バスのダイヤ改正で、改善が見込まれることと新たな課題対策について伺う。	市長 教育長
質問事項 5 避難所の備蓄品について	県内自治体で備蓄している段ボールベッドの数が少ないとの報道があった。本市の段ボールベッドの備蓄はどれくらいあるのか、今後増やす予定があるか伺う。また、簡易トイレについて伺う。さらに自家用発電機の各地域への適正配置について見直しが行われる予定があるか伺う。	市長 教育長

3月3日（月）

発言順番 8

堀 研二郎

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項 1 小野湖特設カヌー・ローイング競技場（仮称）を活用した地域振興について	令和9年に本県で開催される第81回国民スポーツ大会のカヌー（スプリント）競技及びローイング競技の会場として小野湖が選定されました。国スポの開催時期、また、開催後の小野湖を活用した地域振興の計画・構想について伺います。	市長 教育長
（１）小野湖周辺の整備について	ローイングが追加競技となり、当初の整備計画を見直し、「茅葺きの宿かるかや（以下、「かるかや」という。）」を解体の上、リギング場を整備することになりました。国スポにおいては開催成功に向け動いているが、今回の整備計画・構想を展開することで、開催後、今以上の誘客の流れを作れる見込みがあるか伺います。 また、今後はどのような整備を進め、誘客の流れを作る構想か伺います。	
（２）ウォーターフロント推進事業の展開について	令和7年第1回臨時議会で、「かるかや」の解体を含んだ補正予算が可決されました。ウォーターフロント推進事業の中で「かるかや」を宿泊の中心に据えていたと思います。今回、国スポの実施によって、ウォーターフロント推進事業の構想に変更が生じると考えますが、市民に対して内容や進捗状況が共有され、民間の知識や能力の活用がなされているか、その全体像について伺います。	
質問事項 2 農業戦略について	小林市のみならず、全国で自然や食といった地方ならではのコンテンツを目玉として押し出している自治体は少なくありません。地方創生を進める中で豊かな自然、おいしい食べ物、人の良さなど、田舎ならではのことは地方創生の前提条件と言えます。その中で、本市の基幹となる産業を担うのが農業であることは他なりません。小林市の農業戦略が国内外の市場ニーズに沿った戦略であるか議論いたします。	市長

（１）農業に従事する人への支援について	農業従事者及び新規就農者への支援は国の事業をはじめ、市の事業でも進められてきました。 これまでも、農業従事者の不足・減少が小林市の問題・課題として議論されてきましたが、農業従事者の不足・減少によって生じた市への弊害は何かあるか伺います。 また、農業従事者への支援を進め、継続することで小林市にどのような変化がもたらされるか、またどのような変化がもたらされて来たか伺います。
（２）生産体制と市場志向の戦略構築について	農業経営、栽培技術及び消費者ニーズの多様化、物価高騰などの社会的変化や天候不順がある中、小林市の農業における生産体制や市場志向の戦略に対しての分析・評価を伺います。 また、今後新たに必要となる取組や支援について伺います。

3月4日（火）

発言順番 9

小川 真

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項 1 健幸のまちづくりについて	市は、第2次小林市総合計画における健康都市プロジェクトをより具体化するために、令和2年3月に小林市健幸のまちづくり基本方針を定め、約5年が経つ。 改めて策定された経緯と、現在の成果、今後の展望を確認することによって、より市民の理解を深めるようにする。	市長
（1）「小林市健幸のまちづくり基本方針」が策定された経緯について	第2次小林市総合計画における健康都市プロジェクトをより具体化するために、令和2年3月に小林市健幸のまちづくり基本方針を定め、約5年が経つ。まずは改めて策定された経緯を伺う。	
（2）「小林市健幸のまちづくり基本方針」の成果及び今後の展望について	これまでの経過とその成果、今後の展望を確認する。また、第3次小林市総合計画へ盛り込む予定か確認する。	
質問事項 2 健幸のまちづくり拠点施設について	健幸のまちづくり拠点施設（以下、「拠点施設」という。）は、小林市健幸のまちづくり基本方針の拠点となる施設である。有利な財源を確保し建設されているが、その内容、および昨年9月の着工から現在までの工事の進捗状況、建設後に市民が得られる効果等について伺う。	市長 教育長
（1）建設の進捗状況について	拠点施設建設の建設費用、財源、そして進捗状況について伺う。	
（2）建設の効果について	拠点施設に配置される予定の部局課、市民の利便性について伺う。また、期待している効果等について伺う。	
（3）建設後の施設集約について	拠点施設は、5つの老朽化した施設を集約することを前提として、国の補助等を受けて建設されている。建設後に集約される5施設の取扱いや管理について伺う。	

質問事項 3 こばやし健幸ポイント事業について	こばやし健幸ポイント事業（以下、「健幸ポイント事業」という。）について、市民の認識、参加の状況と具体的にどのような効果が狙いで進めているのかを改めて問う。	市長
（１）参加者について	健幸ポイント事業の参加者数、性別、年代、企業、グループ、歩数計、スマホアプリの割合等、具体的に確認する。	
（２）これまでの課題とその対応について	健幸ポイント事業について、現在まで取り組んできて見えてきた課題や問題点、それに対応した対策の経過を問う。	
（３）これからの展開、期待する効果について	健幸ポイント事業について、スマートフォンなどを活用したD X化の取組や今後の展開を問う。	
質問事項 4 団塊の世代の高齢化について	今年 2025 年は、約 5 人に 1 人が 75 歳以上の後期高齢者となり超高齢化社会を迎えると言われている。小林市では 5 歳区切りの年齢別人口を見ると 70 歳～74 歳の人口が約 3,700 人と一番多い。高齢化による地方の経済力と労働力の低下には抗うことはなかなか難しいが、小林市の実態について伺う。	市長
（１）小林市の介護、支援の現状	団塊の世代が後期高齢者になると言われる 2025 年問題だが、小林市はこの局面をどのように克服するのか。 要支援・要介護の人数や世帯の人数を確認し、不安を取り除くための施策などについて伺う。	
（２）要介護・要支援の認定について	介護認定に関して、現在の具体的な流れ、認定までにかかる時間を確認する。	
（３）土地や建物の相続について	親や親族が亡くなり相続したものの、空き家になるなど、土地の管理不足が原因で地域の問題になっている。相続の在り方について、その具体的な手続や空き家問題などを抱えてしまう地方都市はどのように対応すべきなのか伺う。	

3月4日（火）

発言順番 10

大迫 みどり

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項 1 市長の政治姿勢について	新年度予算編成における重点施策と住民福祉の向上に向けた市長の見解を問う。	市長
（１）高齢者の交通手段の確保について	高齢者の交通手段の確保については、運転免許証の返納などもあり、外出困難になっている高齢者が増加傾向にある。早急に解決が求められている課題と考えるが対策を問う。	
（２）国保税について	全国的に高すぎる国保税の本市での状況と課題について問う。国保加入世帯における所得と国保税の推移について及び滞納者の状況と対策について問う。	
質問事項 2 小・中学校統廃合について	「小林市立学校の在り方に関する提言書」について見解を問う。	市長 教育長
（１）小・中学校の在り方について	小・中学校それぞれの現状と課題について問う。統廃合した場合の課題と対策について問う。今後の進め方について問う。	

3月4日（火）

発言順番 11

高野 良文

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項 1 物価高騰対策について	食品、燃料、電気など生活に必要不可欠なものが値上がりしている。また、米の価格が高騰しており市民生活は厳しい局面にあると思うが、物価高騰に対する市の対策について伺う。	市長
質問事項 2 陰陽石及び三之宮峡の現状と今後について	本市の観光資源である陰陽石と三之宮峡は、近年台風被害に見舞われているが、復旧工事の進捗状況と再開の時期について伺う。 また、浜ノ瀬川の変色が元に戻る見通しはあるか伺う。	市長
質問事項 3 不登校及びいじめの現状と対策について	いじめ等により不登校になっている小・中学生に対する学校の対応策について伺う。	市長 教育長
質問事項 4 中心市街地の空き店舗の現状と今後について	空き店舗の現状について伺う。また、店舗所有者に許可を取りシャッターに絵を描くことで、まさに明るさを創出する考えはないか伺う。	市長 教育長
質問事項 5 市役所通線の改良工事について	建物が移転・解体されている現状があるが、当該事業の進捗状況について伺う。	市長

3月4日（火）

発言順番 12

能勢 誠

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項 1 進捗確認と政策立案の深化	これまでの議会において、市当局が「検討する。」「調査研究を進める。」などと回答した事項について、その後の進捗状況を確認し、市民に対する説明責任を果たすとともに、実効性のある施策の推進を促すことを目的とする。さらに、各項目の答弁内容に踏み込み、実際の施策への反映状況や課題の解決に向けた取組について詳しく伺い、今後のより効果的な政策立案につなげる。 また、これまで指摘した課題について、市の対応状況を確認し、これまでの議論を踏まえた新たな施策の方向性や改善点についても問う。市民の負担軽減や行政の透明性向上を念頭に、市政運営の継続的な改善を求めている。	市長 教育長
（１）空き家対策の進捗状況について	自治会や不動産業者との連携について、市は「情報収集の体制を検証していく。」と答弁しましたが、その後どのような進展があったのか、また、きずな協働体を活用した情報収集の委託についての検討状況を伺います。	
（２）学校給食における地元産食材の提供促進について	計画的な予算編成と推進方法の改善について、市はどのような取組を行い、地元産食材の活用をどの程度拡充したのか、今後の推進計画も含めて伺います。	
（３）ごみ分別緩和案の進捗状況について	分別緩和ステッカーの導入について、市は「他市の先進事例を調査する。」と答弁されましたが、その結果と今後の方針について伺います。また、分別違反や不法投棄対策の強化策として、どのような施策が検討されたのかを伺います。	
（４）オーガニックビレッジ宣言の検討状況について	市全域での宣言は難しいとする一方で、段階的な計画の実施を検討すると答弁されました。その後、具体的にどのような計画が進められ、関係者との協議内容について伺います。さらには、持続可能な農業技術の普及活動についての市の考え	

	を伺います。	
(5) 廃プラスチック処理の見直しについて	焼却処理の財政効果や環境負荷について、市はどのような検討を進めてきたのか。また、具体的な施策としてどのような選択肢を考えているのかを伺います。	
(6) 健幸のまちづくり拠点施設に関する考え方	地域経済への影響について明確なデータに基づく検討を求めましたが、市当局はどのように受け止め、どのような具体策を検討しているのか。また、地元企業や商店との連携をどのように進める予定かを伺います。	
(7) 和牛放牧と耕作放棄地活用の進捗状況について	放牧地の活用や有害獣対策、林間放牧の可能性について、市は「調査研究を進める。」と答弁されましたが、その結果と今後の方針について詳しく伺います。	
(8) コントラクター組織の機能強化について	コントラクター制度の活用について、市はどのような支援策・補助制度を活用し、組織の強化を進めているのか。また、今後の方向性について伺います。	
(9) 市単独整備事業の優先順位と情報提供方法について	情報提供の方法や住民意見の収集方法について、市はどのように検討を進め、どのような改善が加えられたのか、具体的な事例を交えて伺います。	
質問事項 2 国保税改定に対する対応について	令和 6 年 6 月議会での国保税改定後、市民の負担状況や納付率の変化についてどのように把握していますか。また、低所得者や高齢者世帯に対する影響について、市当局はどのように分析し、必要な対策を講じているのか。さらに、国保税の負担軽減策として今後検討される施策について伺います。	市長
質問事項 3 基金の運用状況の確認	現在の運用方針と利率の推移について説明をお願いしたい。市の財政健全化の観点から、今後の基金運用の方向性についてどのように考えているのかを伺います。	市長
質問事項 4 陰陽石の保存・活用に関する	陰陽石は、小林市を代表する自然遺産であり、観光資源としての価値を有すると同時に、地域文	市長 教育長

る政策と計画	化の象徴でもあります。しかし、その適切な保存と管理、さらには観光資源としての活用において、いくつかの課題が指摘されています。具体的には、河川区域の私有地化や管理不足が問題視されており、観光振興や地域活性化の観点から見直しが必要です。 また、陰陽石の形成については「自然遺産説」や「加工説」といった異なる解釈が存在しており、その歴史的・文化的価値を再評価することで、観光資源としての更なる可能性を引き出すことが期待されます。 本質問では、陰陽石の保存管理状況、観光資源としての活用計画、歴史的・文化的価値の再評価及び地域住民や関係団体との協働体制について、市の方針と具体策を伺い、市政の取組を前進させるための提言を行いたいと考えています。	
(1) 陰陽石の保存と適切な管理について	現在の保存・管理体制とその課題について。また、河川法違反や私有地化の疑義に対する状況認識や県などとの連携について伺います。	
(2) 陰陽石を活用した観光資源の強化について	陰陽石を中心とした観光振興計画の有無と具体的な内容について。また、「陰陽石祭り」の全国的認知向上に向けた取組について伺います。	
(3) 陰陽石の歴史的・文化的意義の再評価と調査の可能性について	「自然遺産説」と「加工説」に基づくさらなる調査の必要性について。また、陰陽石を文化財に指定する可能性とそのための取組について伺います。	
(4) 地域住民や関係団体との協働について	陰陽石の保存・活用に関する市民や有志団体との協働計画について。また、「(仮称) 陰陽石研究・愛好会」設立を市として支援する可能性について伺います。	
質問事項 5 地域農業を活かした持続可能な食料備蓄体制の構築について	我が国の食料供給を取り巻く環境は、国際情勢の変化、気候変動、災害リスクの高まりなどにより不安定化している。特に、2023 年 6 月に成立し、2024 年 4 月 1 日に施行された「食料供給困難事態対策法」により、国が主体となって食料備蓄	市長

	や緊急時の供給体制を整備することが求められている。しかしながら、国の施策に頼るだけでなく、地域レベルでの食料供給体制の強化が必要であり、小林市のように農業が主要産業である自治体では、地域農業を活用した独自の食料備蓄体制の構築が求められる。一方で、農家の高齢化、担い手不足、燃料・資材高騰による生産コストの増加など、農業者の負担が増しているため、新たな備蓄体制の整備は容易ではない。 このような状況の中で、行政やＪＡのみで備蓄体制を整えることは困難であり、地域の農業者、企業、市民が協力して支える「持続可能な備蓄体制」の構築が必要であると考え。そこで、農業者の負担を増やすことなく、余剰農産物の活用、食品加工・保存の民間委託、地域全体での「分散型備蓄」を推進する仕組みについて、市の考えを伺い、今後の施策につなげていきたい。
（１）食料供給困難事態対策法における自治体の役割と食料備蓄の拡充と現状の課題について	食料供給困難事態対策法における自治体の役割について小林市としての考えと、どのような食料備蓄体制が整えられているのか。備蓄量や備蓄品目、備蓄の保管場所、供給計画について、市が把握している現状を明らかにするとともに、災害時や食料供給困難時における対応策について、市の考えを伺います。 また、市場価格の変動や規格外品などの理由で流通しない農産物を食料備蓄に活用する仕組みの構築が可能かどうか、市の認識を伺います。
（２）民間・地域団体との連携による「分散型備蓄」の推進について	特定の施設に集中させるのではなく、学校、福祉施設、企業などと連携し、地域全体で支える「分散型備蓄」の導入を検討することはできないか。例えば、民間団体や農業法人が運営する「地域備蓄センター（仮）」を設立し、農産物の買取り・加工・保管・供給を担う仕組みの構築について、市の考えを伺います。

(3) 備蓄食品の経済活用について	備蓄食品をふるさと納税の返礼品や防災食品市場、観光地向け商品として流通させることで、経済活動の一部として活用する仕組みを導入できないか。平時に備蓄食品を販売し、一定の収益を確保することで、備蓄体制を自立的に運営する方策について、市の見解を伺います。	
(4) 備蓄用作物の生産補助について	備蓄用作物の生産補助金を設けることで、農家の収益を安定させつつ、食料安全保障を強化することができないか。低コスト・低労力で栽培可能な作物（サツマイモ、大豆など）を備蓄用に奨励し、農家の負担を最小限にしながら備蓄体制を強化する施策について、市の見解を伺います。	
質問事項 6 特別支援教育アセスメントシートの活用とMIM導入による支援体制の強化について	特別支援教育の充実を図るため、学習障害（LD）や発達障害のある児童生徒への支援として、科学的根拠に基づいた教材の導入が求められている。令和7年2月8日に開催された「特別支援に役立つ 教材・支援グッズ紹介セミナー」（S.E.N.S宮崎支部会主催）に参加し、MIM（多層指導モデル）及び「誤り分析を支援につなげる読み書きの『つまづき』アセスメントブック」について学んだ。これらの教材は、現場での活用事例も報告されており、小林市においても特別支援教育の質の向上を目的とし、試験的な運用やモデル校での導入を検討すべきである。また、4・5歳児の早期発見を目的とした「音韻認識テスト」をこども家庭センターや教育・保育施設で導入し、発達段階に応じた支援の強化を図るべきであるとする。さらに、小林市教育委員会では特別支援現場の努力で作成された「特別支援教育アセスメントシート」を使用して学習面や行動面で困難を抱える児童生徒の状況を確認し、校内研修や保護者面談、関係機関への接続を行っている。この既存のシステムをさらに強化するため、MIMの導入が有効と考えられる。MIMの導入により、現場での支援がより具体的かつ効率的になる	市長 教育長

	と期待される。	
(1) 多層指導モデルツール(MIM)の教材の認識と導入の可能性について	MIM及び「誤り分析を支援につなげる読み書きの『つまづき』アセスメントブック」など教材について、市及び教育委員会は認識しているか。また、試験運用やモデル校での実施の可能性について、市の見解を求める。	
(2) MIMの効果検証と市内小学校への導入について	MIMを導入した学校の事例では、読書量の増加や学習意欲の向上が報告されている。本市においても、試験導入やモデル校での運用を行い、効果を検証する考えがあるか。市の見解を伺います。	
(3) 4・5歳児の早期発見のための「音韻認識テスト」の活用について	4・5歳児の音韻認識能力を測る「音韻認識テスト」をこども家庭センターや教育・保育施設で導入する可能性について、市の見解を伺います。	
(4) 「特別支援教育アセスメントシート」の運用状況と課題について	小林市が運用している特別支援教育アセスメントシートの具体的な活用状況と課題として認識されている点を伺います。	
(5) 既存のアセスメントシートとMIMの併用可能性について	現在のアセスメントシートにMIMを補完的に取り入れることで、支援体制を向上させることはできないのか、その可能性について、市の見解を伺います。	
(6) MIMを含むその他のツールの導入に向けた研修と財源確保について	MIMやその他のツールの導入には教員、職員研修やツールの購入が必要です。その実現に向けた市の計画と財源確保の考えを伺います。	
質問事項 7 ふるさと起業家・団体等支援事業のクラウドファンディング型ふるさと納税の寄附金積立基金について	ふるさと起業家・団体等支援事業の資金調達手段として、クラウドファンディング型ふるさと納税を活用しているが、その寄附金を積立てる基金の現状について伺います。具体的には、これまでの累計寄附額や、その活用状況、今後の計画について説明を求める。また、この基金をより有効に活用するための施策について、当局の見解を伺いたい。	市長